

# 秋田県DX推進計画の取組状況について

■ DX推進計画に記載の82取組（再掲を除く）のうち、令和4年度の推進指標（KPI）が80%未満※の取組の進捗状況等は次のとおりである。

## 行政 ～デジタル・ガバメント～

### < 主な取組の進捗と課題 >

○建設業関係手続（許可・経営事項審査・入札契約手続）全般の電子化〔建設部〕  
〔KPI〕建設業許可・経営事項審査「電子申請システム」利用率 R5.6末時点：6.8%（R5計画：10%）※R4実績：2%（計画5%）  
〔取組〕入札参加資格の電子申請については、令和6年2月のシステム運用開始に向けて調整中（入札参加資格の電子申請率 R5目標：10%）  
〔課題〕電子申請のメリットについての理解の浸透、電子契約は全国的に動きが始めた段階であり情報が不足

○キャッシュレス納付の推進〔総務部〕〔企画振興部〕〔出納局〕  
〔KPI〕キャッシュレス納付が可能な手数料等の割合 R5.7末時点：4%※R5.9末には10%の見込み（R5計画：37%）※R4実績：4%（計画：12%）  
〔取組〕窓口キャッシュレス決済端末の設置準備（スポーツ科学センター、近代美術館に12月設置）、電子申請・届出サービスのキャッシュレス納付研修会の開催等  
〔課題〕機器設置や決済手数料について指定管理者の費用負担が増加、電子申請・届出サービスによるキャッシュレス納付は所管課のサポートが必要

○マイナンバーカードの取得促進や交付事務体制充実の取組への支援〔企画振興部〕  
〔KPI〕マイナンバーカード交付率 R5.7末時点：78.8%（R5計画：100%）※R4実績：69.5%（計画：100%）  
〔取組〕大規模商業施設等に出張し約360件の申請をサポート。県と市町村による連絡会議を開催し、高齢者の取得促進に向けた取組事例を共有  
〔課題〕交付率が7割を超えており、今後は高齢者、申請が困難な方、関心の低い方への働きかけが必要。マイナンバー制度の利便性の周知と不信感の払拭

### < 今後の方向性 >

○電子申請のメリットの周知を強化  
・業界団体に対する周知を一層強化するとともに、簡略化した操作マニュアルを提示  
・電子契約について、類似システムを参考にシステム化に向けた方向性を検討

○対応施設・手続の拡大  
・指定管理施設への機器導入を進めるため、負担軽減策を検討  
・一般県民の利用が多い施設への早期導入  
・会計課とデジタル政策推進課で所管課のサポート体制を構築

○マイナンバーカードの利便性の周知  
・健康保険証のマイナンバーカード移行時(R6秋)における医療保険者の対応を注視しつつ、イベント等の機会をとらえてマイナンバーカードの利便性等を周知

## 暮らし ～デジタル社会～

### < 主な取組の進捗と課題 >

○バスロケーションシステムやAIオンデマンドタクシーの導入など利便性の向上と利用の拡大に向けた取組への支援〔観光文化スポーツ部〕  
〔KPI〕地域公共交通情報のオープンデータ化に取り組む交通事業者数  
R5.7末時点 17事業者（R5計画：22事業者）※R4実績：17事業者（計画：22事業者）  
〔取組〕オープンデータ活用講座を年2回開催しデータ作成を支援  
〔課題〕各自治体におけるオープンデータ作成・更新のためのマンパワー不足

○DX推進に資する分野を超えた連携研究や先導的人材の育成に対する支援〔あきた未来創造部〕  
〔KPI〕稲作の10a当たりの労働時間削減率（累積）現時点で不明（判明時期 R6.3）（R5計画：8.78%）※R4実績：-0.9%（計画：5.3%）  
スマート農業指導士の活動によりスマート農業を体験・実践した農家数（累積）（R5計画：30件）  
【参考：R4の取組状況】研究・管理棟の整備、研究7テーマ（超省カスマート農業、果菜類収穫ロボットの開発等）、スマート農業指導士育成プログラム（第1期修了生22名）、出前講座・見学会（16回）の実施等  
〔取組〕県立大学において超省カスマート農業（4月からロボットトラクター等による作業を実施）、果菜類収穫ロボットの開発（5月に試作機による現地試験）等の研究や、スマート農業指導士育成プログラムを実施（5月開講、受講生27名）  
〔課題〕スマート農業技術の社会実装に向けた研究の更なる推進、スマート農業指導士の活動に対するフォローアップの在り方

○デジタル技術を活用した動物愛護及び管理の推進〔生活環境部〕  
〔KPI〕動物愛護センター公式ウェブサイトのページビュー数 R5.7末時点：14,994PV（R5計画：30,000PV）※R4実績：19,761PV（計画：27,000PV）  
〔取組〕今年度は啓発動画や講習会動画を配信。コンテンツ充実に向けて施設のインターネット環境を整備し、年度末に収容動物情報をオンラインで配信予定  
〔課題〕県民の関心を高めるためのウェブサイトコンテンツの充実と認知度の向上

### < 今後の方向性 >

○オープンデータ利活用の促進  
・自治体に対しオープンデータ活用講座を開催するとともに、運営体制の充実・強化の働きかけ

○スマート農業技術の社会実装に向けた取組の支援  
・アドバイザーボードからの助言を踏まえつつ実証を主体とした研究を支援  
・スマート農業指導士育成プログラム受講者への支援に加えて、修了者に対する継続的なフォローアップの仕組みを大学と共に検討

○小中学生向け「命の教室」の映像化  
・遠隔地の小中学生が動物愛護講習を受講できるよう、「命の教室」を映像化しウェブサイトに掲載

## 環境基盤

### < 主な取組の進捗と課題 >

○スマートフォン操作体験会等の実施〔企画振興部〕  
〔KPI〕スマートフォン操作体験会の参加者数 R5.7末時点：206人※6月から開始（R5計画：1,800人）※R4実績：1,012人（計画：1,600人）  
デジタル活用サポーター育成研修会の参加者数 8月から開始（R5計画：110人）※R4実績：52人（計画：100人）  
〔取組〕市町村、NPO、通信事業者と連携しながら実施中。周知強化のため、市町村広報紙やコミュニティラジオによる広報に加え、新たに町内会単位でチラシを配布  
〔課題〕スマートフォン操作体験会の参加者数が定員の5割程度にとどまっている

### < 今後の方向性 >

○周知手法の改善、事業の実施方法の見直し  
・開催手段や広報手段の見直しによる参加率の向上  
・デジタルバイド対策の内容（開催方法、講習内容、関連団体との連携方法）を見直し、新たな取組を検討